世界最大の食品公害

森永ヒ素ミルク中毒事件資料館

Museum of Morinaga Arsenic Milk Poisoning Incident.

No More Morinaga, Stop! Food Pollution.

(上)砒素混入の森永乳業MF印ドライミルク缶(資料館所蔵 原寸大)
(左)質の悪い原料乳を新鮮に見せかける目的で添加された燐酸ソーダ(朝日ニュース映像)。添加物自体の問題性もさることながら、森永乳業は、猛毒の砒素が混入した産業廃棄物由来の粗悪品を使用したため、乳児の大量死を招いた。同ミルクは全国シェアを持っていたため、日本中がパニックに陥った。

ところが、事件発生後まもなく「幕引き」の画策が始まった。国・厚生省は森永を援護する側へまわり、国の作った「第三者委員会」は、「乳児が砒素を多量に飲用しても後遺症は起こりえない」とする見解を発表。森永は国と組んで、多額の資金を医学会へばらまき、救済を求める被害者家族の声を14年間にわたって徹底的に封殺した。その結果、抵抗するものは数家族にまで減少し、被害児は放置された。だが、1968年からの時代変化に呼応した医師たちの告発、市民運動による全国的な森永製品不売買運動で再度事件は注目を集め、森永乳業の陰謀が露見した。追い詰められた森永は存続をかけ1973年の政治決着に同意、からくも救済機関が発足した。ところがその後、救済資金の取り扱いや森永との関係を問題視する被害者家族に圧力と排除が強行された。未だに「被害者への救済は不十分」、「被害者を救済機関上層部が抑圧支配している」との批判が相次いでおり、公害事件の闇を見せ続けている。

岡山は、1955年に西日本を中心に発生した森永ヒ素ミルク中毒事件で最も多くの被害者を出し、その後の被害者救済運動の拠点となった地です。

同事件は、131人の赤ちゃんを死亡させ、12,159名の被害者を生み出しました(※)。世界史上最悪の食品公害事件であり、戦後初の産業公害といわれています。

ところが、森永事件の歴史的事実の継承は、ある事情から、この30年あまり、積極的に行われて来ませんでした。そして中国のメラミン粉乳中毒事件など類似事件、食の安全をめぐる不祥事が、国内外であとを絶ちません。

当資料館は、当時の被害者団体「森永ミルク中毒のこどもを守る会」の全国本部事務局が存在した場所です。当館には被害者救済運動のもっとも過酷で重要な時期の一次資料30万ページ以上が、半世紀以上にわたり厳重に保管されています。

昨今多発する食の安全を脅かす事件の原点が網羅されているともいえるのがこの事件です。その教訓を後世に伝えることは喫緊の課題であると考え、コンパクトな展示室を整備しました。食品公害事件の資料館としては全国初のものになります。自宅内設置の私設展示室のため、常時開館というわけには参りませんが、市民の皆様と共に食の安全を考えていける場になれば幸いです。

(※ 1956年2月時点厚生省発表による確認被害者数のみ。死亡者は現在、1千人を超えている。)

銀河に悼む

安西冬衛

何びとが 黒い想像
あの 青い悪魔のすがたを
蝋引の天使の羽のかげに 読みとって
ダムダム弾よりも酷い 死の手に
抗らい得たであろう

ああ 砒素粉乳の悲劇「幼児殺戮」
それは 中世の陰惨な宗教画ではない
残忍な 現世の地獄図なのだ
性こりもない人間の 偽りの粉飾が
またしても 犯した
大量殺戮の悪業…粉乳禍
(後略)…

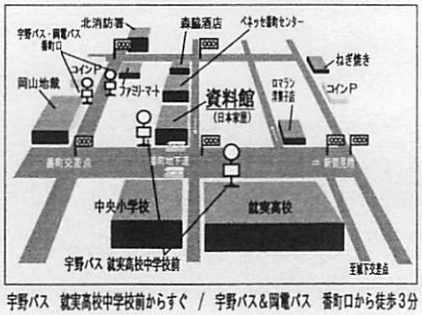
安西冬衛【あんざい ふゆえ】
明治31(1898)年3月9日～昭和40(1965)年8月24日。
日本の詩人。幻想的なイメージをたたえたロマネスクの精神を基底に散文詩を作った。
「てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った」の詩は教科書にも掲載され、あまりにも有名。同事件に対する、我が国を代表する芸術家による最初の反応である。資料館には同氏の直筆原稿全文が展示されている。

〈岡崎哲夫記念〉
森永ヒ素ミルク中毒事件資料館
虎頭要塞平和祈念資料館
http://ww3.tiki.ne.jp/~jcn-o/hiso.htm

当館は予約が必要です

〒700-0811 岡山市北区番町1-10-30
電話 086-224-0737(岡崎宅気付)
電話受付時間
11:00-12:00 14:00-16:00

個人家庭のため電話は通じないこともあります。また駐車場及びトイレはありませんので、あらかじめご了承下さい。



宇野バス 就実高校中学校前からすぐ / 宇野バス&岡電バス 番町口から徒歩3分